

海外研究調査報告書

地域文化研究専攻 博士課程 1年
門間 卓也（ロシア・東欧）

この度「卓越した大学院拠点形成支援補助金」の支援を受け、2013年10月30日より11月2日の期間にセルビアの首都ベオグラードで研究調査を行ってきたため報告致します。

私は現在クロアチアの首都ザグレブで博士論文執筆に係る在外研究を行っているため、今回の出張はクロアチアからセルビアへの渡航となりました。ベオグラードでは調査研究のテーマである『ユーゴスラヴィア王国における「暴力の文脈」 - 1930年代のセルビア民族内関係の分析より - 』に基づき、ユーゴスラヴィア文書館での史料収集、バルカン研究所でのセルビア人研究者とのディスカッション、二次文献の収集を行いました。

10月31日及び11月1日にユーゴスラヴィア文書館で以下の史料の調査を行いました。

①AJ/37 Fond Milan Stojadinović

②AJ/83 Fond Sava Nikola Kosanović

③AJ/85 Fond Lazar Marković

文書館での史料収集の目的は、博士論文において1930年代のユーゴスラヴィア王国におけるセルビア民族内部の多様な政治的立場に関して論ずる上で、当時の民族政治家の言説を確認することでした。特に①AJ/37 Fond Milan Stojadinovićに関しては、クロアチア民族との協調に配慮したとされる Stojadinović の関係史料を豊富に収めているため、クロアチア民族政治家との政治的交渉に関する記録を多数収集することが出来ました。また同史料は文書館内でデジタル化された文書を公開しています。②AJ/83 Fond Sava Nikola Kosanović は1920年代末からクロアチア民族政党と連携していた独立民主党の重要人物 Kosanović の関係史料を収めており、ユーゴ王国史研究において未だ調査が進んでいないセルビア人・クロアチア人関係について有用と思える記録を発見することが出来ました。今後上記史料の比較検討を進めたいと思います。

文書館での調査の他に、10月31日にはバルカン研究所を訪問し、大戦間期のフランス知識人内部でのユーゴ王国に関する政治的ディスカールの研究をされている Veljko Stanić 氏と面会して今回の調査研究及び博士論文執筆に関する参考意見を頂き、また最近のユーゴ王国史研究の動向についてディスカッションを行いました。



ベオグラードのカレメグダン公園での眺め

今回のセルビアへのお出張では短期間ながら目標としていた史料収集だけでなく現地研究者との交流等今後の研究に繋がる財産を得ることが出来ました。それも「卓越した大学院拠点形成支援補助金」による支援のおかげであり、感謝申し上げます。